

夕張市子どもの読書活動推進計画

平成 25 年 4 月

夕張市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	第1次夕張市子どもの読書活動推進計画	2
	①計画策定の意義と目指す姿	2
	②計画の名称と期間	2
	③計 画	3
	ステージ i 「乳幼児の読書環境（0歳から5歳）」	3
	ステージ ii 「児童の読書環境（小学校期）」	4
	ステージ iii 「生徒の読書環境（中学校期）」	5
3	資料編	6
	アンケート結果	6
	絵本・児童書の状況	11
	子どもの読書活動に関わる活動	12

1 はじめに

子どもにとって「読書」とは、言葉を学び、感性を磨き、想像力を育てるために欠かすことのできないものです。特に幼少期の読み聞かせや、質の良い本との出会いは、その後の人生をより豊かで深いものにしていく、とても重要な役割を担っています。

家庭における乳幼児への絵本の読み聞かせは、本との最初の出会いであり、親との絆を深める優しい時間となることでしょう。幼児や低・中学年の児童にとっては語彙を増やし想像力を育てる助けに、また、高学年・中学生にとっては興味を深め、知識を増やすものとなります。

しかしながら、近年では、テレビや携帯電話、インターネットの普及により、社会には様々な情報が溢れています。本についても例外ではなく、数えきれないほどの書籍が多様な形で出版されています。

子どもが自分で本を選ぶことができるようになるまでの読書環境は、家庭や生活環境に依るところが大きいものです。また子どもたちが、より良い読書習慣を身につけることは、その人間性を育て豊かな人生を歩む糧となります。

そのために、子どもたちに本当に必要なことを教えてくれる本、未来を切り拓く力や感動を与えてくれる本を、自ら手に取れる環境を創っていくことが、私たち大人に課せられた義務ではないかと思うものです。

この度、教育委員会では、たくさんの方のご協力をいただき、第1次となる「夕張市子どもの読書活動推進計画」を策定することができました。

これを機に、子どもの読書環境を担う大人たちが、正しい知識と高いスキル、そして同じ目標を持つことにより、その環境づくりが着実に推進されることに期待いたします。

夕張市教育委員会
教育長 小林 信 男

2 第1次 夕張市子どもの読書活動推進計画

① 計画策定の意義と目指す姿

本市においては、「読書活動の推進」について、これまで夕張市社会教育中期計画の中で明記し、その施策に沿って進めてきたところです。

しかしながら、現在、本市の子どもを取り巻く読書環境は、ボランティアの力によって支えられているところが大きく、行政・家庭・学校・地域が課題を共有し、その実現に向けて連携していくことが重要となっています。

そのような現状を踏まえ、すべての関係者が同じ目標を持ち、一丸となってより良い読書環境を総合的かつ計画的に醸成していけるよう、本計画を策定することといたしました。

策定にあたっては、第5次夕張市社会教育中期計画を踏まえた上で、子どもたちの日常に携わる保育所、幼稚園、小学校、中学校、そして乳幼児をもつ保護者を対象に、子どもたちの読書活動の実態について調査し、その結果を基礎資料といたしました。

本計画を通し、子どもたちが素晴らしい本と出会い、豊かな人間性を身につけられるよう、行政・家庭・学校・地域がより緊密に連携しながら多角的な読書環境を整備してまいります。

② 計画の名称と期間

この計画の名称を「第1次 夕張市子どもの読書活動推進計画」とし、期間は平成25年度から平成29年度の5ヶ年とします。

なお、具体的な取り組みについては単年度の社会教育計画の中で示し、年度ごとの事業の反省と評価を積み重ね、目標の達成に努めます。

③計画

ステージⅰ)「乳幼児の読書環境(0歳から5歳)」

子どもが最初に本と出会うのは家庭です。絵本の読み聞かせは親子の温かな関係を育み、精神的な安定や充足感、親への信頼をもたらします。言葉や感情、基本的な生活習慣なども絵本から模倣し覚える大切な時期です。

現 状

- 9・10ヶ月健診ではボランティア団体から絵本のプレゼントがあり、ここでは市図書コーナー司書からの読み聞かせと絵本の紹介をするなど、ブックスタートと同じ位置づけで実施されている。
- その他、乳幼児健診会場や育児教室でのボランティアによる読み聞かせや託児は、市図書コーナー・ボランティア・市保健福祉課の共同事業となっている。
- 幼稚園・保育園等における読み聞かせは積極的に行われている。

課 題

- 乳幼児健診会場には絵本を並べているが、興味をもつ親子・興味のない親子に差が感じられる。
- 家庭における読み聞かせについても、毎日熱心に行っている家庭がある一方、あまりなされていない家庭もあるようである。
- 各保育園の絵本の数とはいえないようである。

方 策

- 読み聞かせボランティア・市図書コーナー・保健師が連携しての子育て支援。
- 読み聞かせの必要性の発信と絵本に関する情報提供。
- 幼稚園・保育園支援。

具体的な取組

- ア 読み聞かせボランティア・市図書コーナー・保健師の連携
 - ・ボランティア団体の協力によるブックスタート
 - ・乳幼児健診会場・育児教室でのボランティアによる読み聞かせ・託児
- イ 家庭への働きかけ
 - ・保健福祉センターでのボランティアによる読み聞かせ活動(おはなし会)の実施
 - ・乳幼児健診会場での市図書コーナー司書による読み聞かせの必要性の発信と絵本紹介
 - ・月齢に応じた絵本を紹介する冊子の作成・配布
- ウ 幼稚園・保育園支援
 - ・市図書コーナーから絵本や紙芝居の貸出
 - ・ボランティアによる読み聞かせ
 - ・ボランティア・幼稚園・保育園の共同開催による絵本や読み聞かせに関する研修機会の充実

ステージⅡ)「児童の読書環境(小学校期)」

文字を覚え、本の好みがでてくる時期に良質な本に出会えることは、物事への興味や関心を引き出し、感性や想像力を育むことにつながります。また本の楽しさを知り自主的に本を読む土壌を育てるための大切な時期です。

学習においても、自ら図鑑・辞事典等を使って調べる力を育てることが大事になってきます。

現 状

- 学校図書室はいつも開放されており、休み時間は自由に利用できるようになっている。また、授業でもよく利用されているようである。
- 学校とボランティアとの連携は良好であり、朝や年一度のブックフェスティバルでの読み聞かせのほか、図書室整備などにも関わっている。毎週ボランティアが読み聞かせに入ることにより、児童の「話を聞く姿勢」が出来てきて、より本に親しむことができる。
- 家庭での読書環境には差があり、市図書コーナーも交通事情などのため、保護者が一緒になければ利用が難しい。

課 題

- 放課後の状況や市図書コーナーの利用状況を鑑みると、学校図書室の充実は不可欠である。しかし、図書室がせまく書架が十分ではないため、図書が充足していないにもかかわらず満杯の状態である。
- 長期休業期間中や土曜日・休日には市図書コーナーの役割も重要となる。

方 策

- 学校図書室の環境づくり、児童に対する読書支援を学校・市図書コーナー・ボランティアが協力し行なう。
- 家庭への働きかけに努める。

具体的な取組

- ア 学校図書室の環境づくり
 - ・ 図書の計画的な整備及び選書等運営相談
 - ・ 学校と市図書コーナー司書が相談して書架の工夫を行なう
 - ・ 市図書コーナー司書・ボランティアによる図書整理
 - ・ ポップ・展示コーナーの充実
- イ 読書支援
 - ・ ボランティアによる読み聞かせの充実
 - ・ 調べ学習の相談など学校と市図書コーナーの連携
- ウ 家庭への働きかけ
 - ・ おすすめ本の紹介
 - ・ 市図書コーナーの情報発信

ステージⅢ)「生徒の読書環境(中学校期)」

周囲から多くの影響を受け、心も大きく成長するこの時期は、知識の幅を広げ、自我の確立や情操の涵養のためにも優れた本を読んでほしい時期です。また相互理解のツールとしての役割も期待できるので、多様なジャンルの本を手にとれる環境が必要です。

現 状

- 家庭においては、読書について親などからの干渉はほとんどなくなり、自主的に本を読む習慣がついている子どもと、ついていない子どもとでは読書量や読む本の質にかなりの差がでてきているようである。
- 学校においては、授業や部活動など生徒は多忙な時間を過ごしているため、図書室でゆっくり本を手にとるといった時間はほとんどないようである。

課 題

- 本に親しむ環境を整え、意識的に様々なジャンルの図書に接していくことが重要となる。友だち同士で薦め合ったり、あるいは親や先生などの大人から本を紹介することが読書の幅を広げるのに有効である。
- 図書室の利用時間が短く、授業で利用されることも殆どない。

方 策

- 学校図書室の整備・充実
- 調べ学習での利用の推進
- 市図書コーナーからの図書室支援

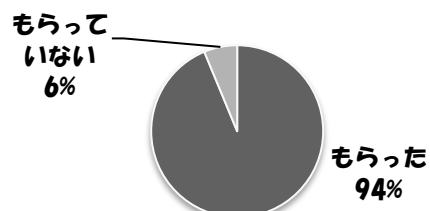
具体的な取組

- ア 学校図書室の整備・充実
 - ・図書の計画的な整備及び選書等運営相談
 - ・図書室利用時間の拡充に向けた検討
 - ・市図書コーナー司書・ボランティアによる図書整理
 - ・ポップ、テーマ展示による工夫
- イ 調べ学習利用の推進
 - ・調べ学習用図書の充実
 - ・市図書コーナーへの相談受付・資料貸出
- ウ 市図書コーナーからの支援
 - ・運営相談
 - ・ブックトークの推進
- エ 読書活動支援
 - ・朝の読書推進
 - ・ボランティアによるブックリストの作成・配布

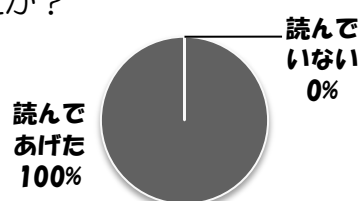
3 資料編

アンケートⅠ 幼児をもつ保護者【1歳6ヶ月児健診時16名回答/選択・記述】

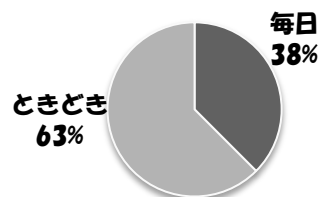
①9・10ヶ月健診で絵本をもらいましたか？



②もらった絵本は家でも読んであげましたか？



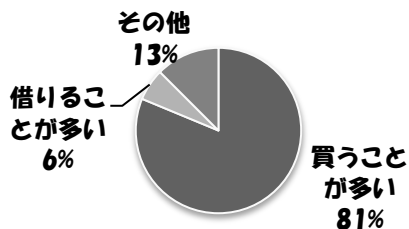
③普段、絵本の読み聞かせをしていますか？



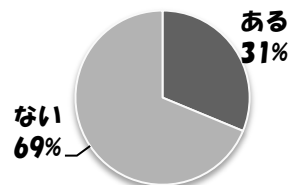
④本はどのようにして手にしていますか？

(その他意見)

- ・祖父母が買ってくれる
- ・どちらでもない



⑤図書コーナーを利用したことはありますか？



⑥図書コーナーに対するご意見・ご要望をお書きください。

- ・もっとたくさんの本があればいいと思います。でも図書コーナーがあることに感謝しています。
- ・もう少し早い時間から開いていたらありがたいです。
- ・最近のものや年齢にあったオススメリストがわかると嬉しいです。

①園では絵本や紙芝居の読み聞かせを日常的に行なっていますか？

- ・毎日実施の他、月に1度ボランティアによる読み聞かせがある。
- ・毎日実施。午睡前はクラス単位でも実施。遊びの時間に本を持ってくる子がいれば読む。
- ・朝やクラスでの自由遊びで子どもが望んだ時。場面の切り替えや行事の時など毎日実施。
- ・午前、午睡前、帰りの会、時間外保育中など日常的に実施。
- ・朝・帰りの集会時の他、各クラスで毎日実施。
- ・毎日実施。

②パネルシアター・エプロンシアターなどの活動は行なっていますか？

- ・していない。
- ・誕生会他行事の時に実施（月1～2回）
- ・入園式や誕生会等の催しの際に実施。
- ・主に誕生会や行事の時に実施。
- ・誕生会等で実施。普段も子どもが望んだ時に実施。
- ・パネルシアターは年に2～3回。エプロンシアターは園にない。

③子どもたちが家庭で十分に本を読んでもらっていると感じますか？

- ・子どもの家庭環境によって差があるように思うが、十分に読んでもらっている子が多いと感じる。
- ・十分読んでもらっていると感じる子は少ない。園でもらった本などで一時的に触れると思われるが頻繁ではないようだ。
- ・「この本知っている！」と答える子もいるが、園を通して買っている家も少なく、十分に読んでもらっているとは言えないように思う。
- ・親の就労時間等により機会は少ないように感じる。園で絵本の斡旋をしてもほとんど購入希望はない状況である。
- ・ほとんどの子は読んでもらっていないと思う。
- ・十分にされていると思う家庭と、ほとんどされていないと思う家庭がある。

④園所蔵の絵本・紙芝居は十分ですか？

- ・はい。
- ・予算の関係上、毎年購入はしているが十分とは言えない。
- ・望めばキリがないと思うが、新刊がでると子どもたちに見せたいと思うことがある。
- ・十分とは言えない。絵本が傷んでいたり紙芝居の内容が古いと思うものがある。読んでいて子どもが理解できないと思われる言葉遣いがある。
- ・十分とは言えないが、ある程度は確保されている。
- ・絵本はたくさんある。図書コーナーの巡回図書の配本も利用しており十分。紙芝居は古いものばかりで不十分と感じており、あまり読んでいない。

⑤市図書コーナーに希望することがあればお書きください。

- ・なかなか利用する機会がなく残念。たくさんの絵本があるのでぜひ利用したい。
- ・園では大型絵本や大型紙芝居は高価なためなかなか購入できない。図書コーナーにあるものはこれからもどんどん借りて、子どもたちに読んでやりたいと思う。できれば少しでも新しいものを揃えていただけると嬉しい。
- ・絵本が豊富で環境も良いと聞いているが、地域から離れているため利用する機会がなく残念に思う。
- ・日曜に開館してほしい。

⑥読み聞かせボランティアに希望することがあればお書きください。

- ・園に来て読み聞かせていただく機会があれば嬉しい。
- ・ぜひ園に読み聞かせに来ていただきたい。保育士が読むときとは違った楽しさを味わわせてあげたい。
- ・ぜひ園にも来ていただき、聞かせてもらえればと思う。
- ・今のところない。
- ・いつも子どもたちを楽しませてくれ感謝している。

①図書室はいつでも利用できるようになっていませんか？

小：いつでも利用できる

中：昼休みのみ利用できる

②図書室の利用状況を教えてください。

小：たくさん利用している（夏冬休みは一人3冊まで、普段は2冊まで）

中：10人前後/日（貸出と返却のみ・図書室での読書）

③図書を購入するとき、どのように選定していますか？

小：低学年・中学年・高学年向けの内容を吟味し、教職員で選定。（見本を参考に）

中：生徒の希望する中から選定。図書ボランティアの推薦図書。

④図書委員会は主にどのような活動をしていますか？

小：大休み・昼休みの図書の貸出。オススメ図書の紹介（ポップ作りやカードの記入）

中：毎日の図書室の管理・整理と本の貸出業務。図書室の清掃・図書だよりの発行、ポップの作成などは月1回の委員会時に実施。

⑤調べ学習など授業に図書室が利用されていますか？

小：利用している。

中：辞書を使い言葉の意味を調べるなどはあるが、授業ではほとんど利用されていない。

⑥各教室に学級文庫はありますか？

小：学級によってあるところもあり、担任の個人の本が置いてある。

中：ない。

⑦-1 ボランティアによる読み聞かせ以外に、読み聞かせ・朝読書・一斉読書などに取り組んでいますか？（小学校のみ）

小：学年・学級により創意工夫されている。

⑦-2 朝読書・一斉読書などに取り組んでいますか？（中学校のみ）

中：取り組んでいない。

⑧ブックトークはしていますか？

小：高学年は子どもたちでやっているようだ。

中：実施なし。

⑨年に一度の道立図書館によるブックフェスティバルについて希望することをお書きください。（小学校のみ）

小：読み聞かせや大型絵本、紙芝居などがあると良い。

⑩市図書コーナーにどのような連携を望みますか？

小：今やっただいていることを続けてほしい。

中：図書の配置や分類について効果的な方法を教えてほしい。

⑪読み聞かせボランティアにどのような連携を望みますか？

小：今やっただいていることを続けてほしい。

中：読書の経験が少ないので本に興味を持てるような企画などあったら教えてほしい。

⑫今後、図書室をどのように活用させたいですか？

小：本を大切に扱うことを徹底させたい。

低学年には読み聞かせなどを通していろいろな読み物に興味を持てるように。

中学年には自分の好きな本を見つけて進んで読書に親しめるように。

高学年には目的に応じて本を選び、進んで読書に親しめるように。

中：基本的なマナーを守って使用してもらえるようにしたい。

【絵本・児童書の状況（市図書コーナー分）】

		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
蔵書数	総数	19,717	20,525	22,808	24,272	23,339	
	内数 絵本・児童書	5,028	5,224	6,213	6,572	7,311	
貸出冊数	総数	9,155	8,479	8,812	9,347	7,785	
	内数	絵本	2,346	2,139	2,077	2,115	1,821
		児童書	1,305	664	480	510	301
	絵本・児童書計		3,651	2,803	2,557	2,625	2,122
	絵本・児童書の占める割合		39.9%	33.1%	29.0%	28.1%	27.3%
中学生以下一人当たりの年間貸出冊数		4.0	3.4	3.2	3.6	3.0	

蔵書数は清水沢図書コーナー・巡回文庫分を含みます。

貸出冊数に清水沢図書コーナーの分は含まれていません。

小数点ができるものは第二位で四捨五入しています。

特に記載のない数字は冊数を表しています。

【子どもの読書活動に関わる活動（平成24年度）】

市図書コーナーの取組

絵本紹介	乳幼児健診会場での絵本展示と絵本紹介	月1回
巡回図書	幼稚園、学童保育所（2か所）へ配本	月1回
調べ学習相談	質問への回答、関係図書の貸出	通年
道立図書館との連携	学校ブックフェスティバル（小学校） 図書まつりの企画展示用図書借受	年1回
清水沢図書コーナー	本の貸出の他、ロビーに乳幼児用の本のスペースを設置	通年
学校読書活動支援	図書室図書整理	年2回
オススメ本の紹介	生涯学習カレンダー「まなび〜ば」で夏冬期休業前に図書を紹介	年2回
図書まつり	市民団体による企画やブースと合わせ1日楽しめるイベントを実施	11月

読み聞かせボランティア「ひなた Book★」の取組

おはなし会	保健福祉センターでの手遊び・読み聞かせ	月2回
朝の読み聞かせ	小学校で朝礼前に10分間の読み聞かせ	週1~2回
小中学校図書室整備	受け入れ本の整備と書架整理	年2回
育児教室協力	読み聞かせ・託児	年10回
乳幼児健診協力	読み聞かせ・託児	月1~2回

夕張子ども文化の会「かぜちやる」の取組

ブックスタート	9・10ヶ月健診時に絵本・リーフレット・専用バッグ配布	月1回
講演会活動	絵本作家等による保育園でのワークショップ および学校での講演会	年3回
中学生向けブックレット配布	新入生におすすめ本リストを配布	年1回